地域医療学実習　レポート

学籍番号：4314100120　　氏　名：　梶尾 梨咲子

実習先：　中之島、諏訪之瀬島　　実習期間：平成 31 年４月 19 日　～　４月 24 日

１．環境

トカラ列島とよばれる十島村は、屋久島と奄美大島の間に、有人７島と無人５島で構成される多島一村であり、南北約 160 km におよぶ、南北に長い村である。琉球文化と大和文化の接点であり、独特な文化も有している。

温暖で、雨も多く、夏季は台風の常襲地帯であり、冬季は北西からの季節風が強く吹く。

口之島から悪石島までの各島は火山特有の地形であり、周囲は断崖絶壁に覆われ起伏が激しく平坦地が少ない地形である。小宝島・宝島の各島は、珊瑚礁が隆起した島であり、山も低く比較的に平坦地も多い。霧島・屋久島火山帯に属している、中之島の御岳および諏訪之瀬島の御岳は現在も噴煙を上げ、活動する活火山である。また、口之島・中之島・諏訪之瀬島・悪石島・小宝島では温泉が自噴している。

・中之島

面積：34.42 k㎡

周囲：31.80 km

東経：129 度 55 分 01 秒

北緯：29 度 51 分 30 秒

最高点：979.0m

人口：159 人、90 世帯

面積、人口ともに十島村で最大の島である。

島の中北部にそびえるトカラ列島最高峰の御岳（979m）は登山もでき「トカラ富士」の愛称で呼ばれる。

麓の高原には鹿児島県天然記念物のトカラ馬が放牧され、

近くの天文台には、九州最大級の 60 センチ反射望遠鏡を備えている。

動植物：トカラ馬：西洋種の影響を受けていない小型の在来種で、鹿児島県の天然記念物にも指定されている。明治 30 年ごろ喜界島から宝島に移入され、戦後になりトカラ馬と呼ばれるようになり、現在トカラ列島では、中之島と宝島で飼育されている。

マルバサツキ、スダジイ群落、ビロウ群生、トカラヤギ

土地の利用状況：牧場、畑

・諏訪之瀬島

面積：27.61 k㎡

周囲：27.15 km

東経：129 度 42 分

北緯：29 度 36 分

最高点：799m

人口：79 人、44 世帯

十島村で二番目に大きい島である。

御岳（799m）は過去に幾度となく大噴火を繰り返してきて、今も活発に噴煙をあげている。文化 10 年（西暦 1813 年）の大噴火でほとんどの人家は消滅し、全島民が避難したため、約 70 年間は無人島となっていた。その後、明治期に入り、奄美大島出身の藤井富伝らが入植し開拓して、現在の島の基盤を築きあげた。

藤井富伝翁の墓

動植物：マルバサツキ：横当島を除くトカラ列島全域をはじめ屋久島、開聞岳などに分布しているが、中之島や諏訪之瀬島のような大群落は他には類を見ない。特に諏訪之瀬島では、海岸から山頂付近まで分布し、低地では 5～6 月、標高 400m を超える高地では、7 月～8 月にかけて咲き、一面ピンクのお花畑と化す。厳しい自然環境にも関わらず北西部の溶岩台地に群生している。

ヤシャブシ群落（南限）、リュウキュウチク、トカラヤギ

マルバサツキ（十島村役場 HP より）

子ヤギ

土地の利用状況：牧場、畑

2．社会的背景

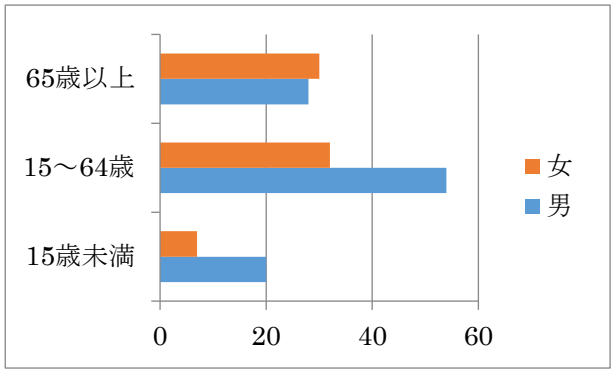
＜人口構成＞

・中之島

人口：159 人、90 世帯（2018 年３月 31 日）

人口構成（2015 年 10 月１日）

	15 歳未満	15～64 歳	65 歳以上
男	20	54	28
女	7	32	30

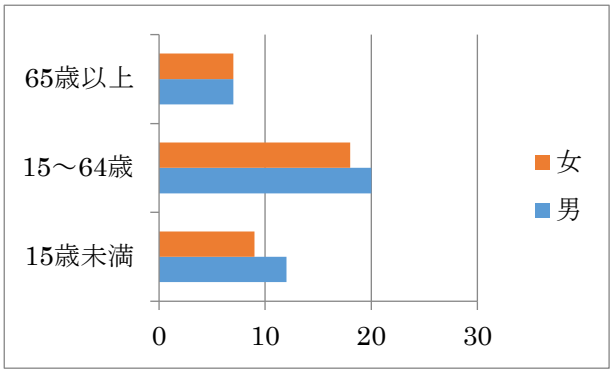


・諏訪之瀬島

人口：79 人、44 世帯

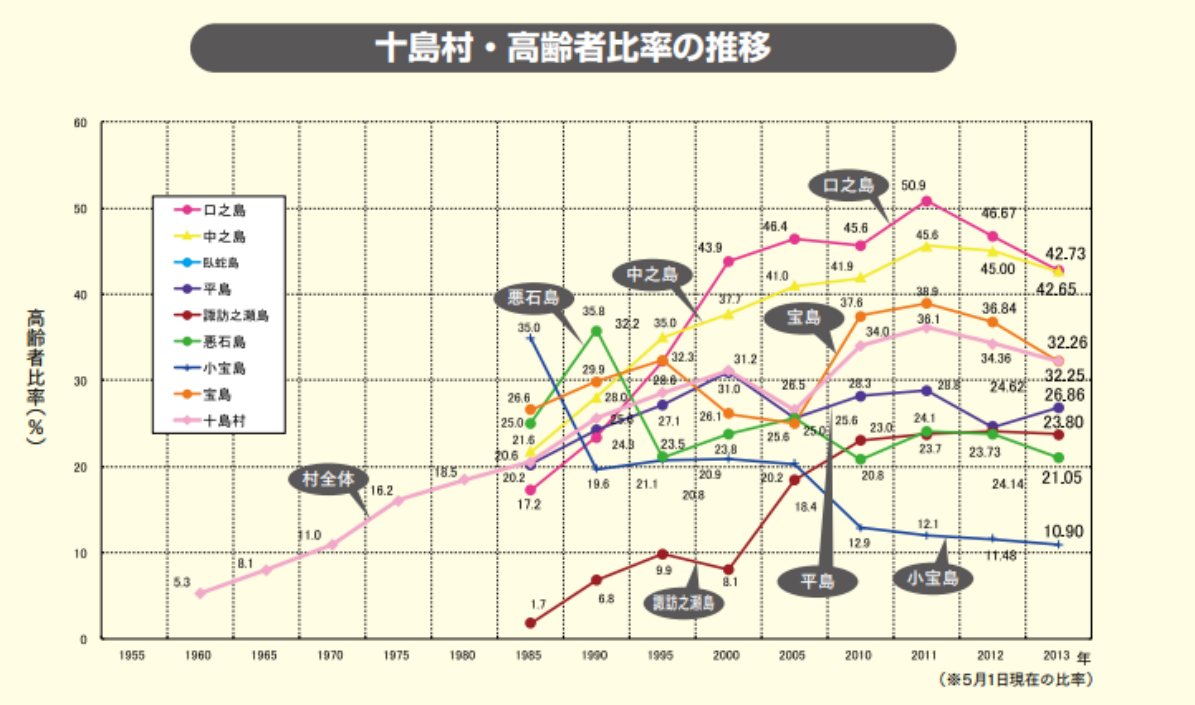
人口構成（2015 年 10 月１日）

	15 歳未満	15～64 歳	65 歳以上
男	12	20	7
女	9	18	7

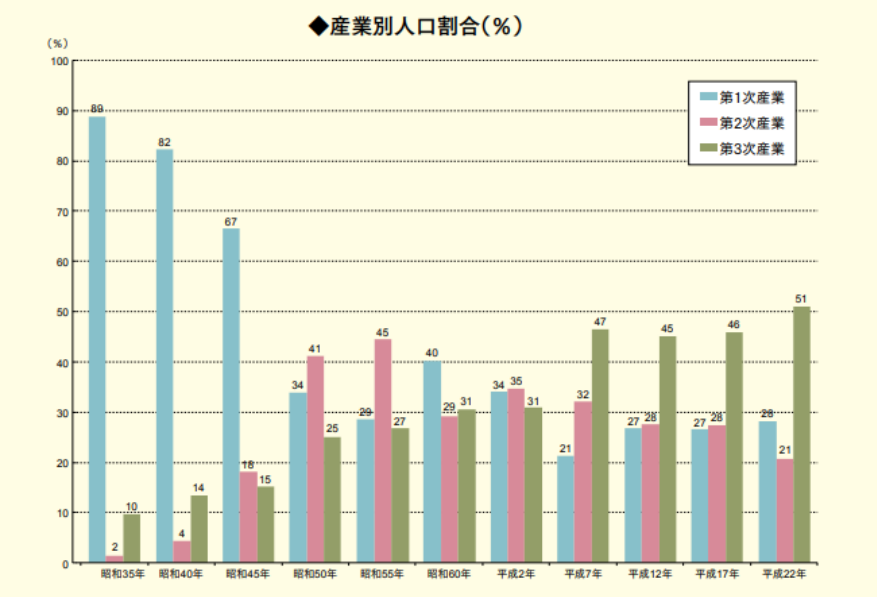


＜高齢化率＞

高齢者の比率は増加傾向にあったが、近年Ｉターンの若い世代と住民が協力し合いながら生活しているという。また、積極的な移住者の迎え入れにより、若い世代の移住者の増加と定着につながった島もある。また、子供を産み、育てやすい環境づくりに力を入れている島もあり、そうした取り組みにより子供の数が増えた島もある。一方で課題となるのは、十島村には小中学校しかないため、高校進学で若い世代がどうしても村の外に出てしまうことである。



＜産業＞



主な産業：農業、畜産業、漁業

主な特産品：サンセベリア、天然塩製品、早だしびわ、トビウオ、漁醤

図表 1－1－20　産業分類別就業者数

（単位：人、%）

	口之島	中之島	平島	諏訪之瀬島	悪石島	小宝島	宝島	十島村計			参考
								2010年	構成比	2005年比増減	2005年
第1次産業	17	23	12	9	13	5	20	99	28.2	8	91
農業	14	17	6	7	11	3	16	74	21.1	3	71
林業	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0
漁業	3	6	6	2	2	2	4	25	7.1	5	20
第2次産業	13	8	9	4	10	10	19	73	20.8	▲ 21	94
鉱業	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0
建設業	13	8	8	4	10	7	10	60	17.1	▲ 28	88
製造業	0	0	1	0	0	3	9	13	3.7	7	6
第3次産業	26	35	22	21	21	22	32	179	51.0	22	157
電気・ガス・熱供給・水道業	3	4	3	3	3	3	3	22	6.3	6	16
情報・通信業	0	0	0	0	0	1	0	1	0.3	1	0
運輸業	0	0	0	1	0	1	2	4	1.1	1	3
卸売・小売業	4	5	1	1	1	0	3	15	4.3	6	9
金融・保険業	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0
不動産業	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0
飲食店・宿泊業	5	6	4	3	5	4	6	33	9.4	5	28
医療・福祉	1	1	1	1	1	1	4	10	2.8	3	7
教育・学習支援業	9	11	11	7	9	10	9	66	18.8	3	63
複合サービス事業	2	3	0	0	0	0	3	8	2.3	▲ 1	9
サービス業	0	2	1	1	1	0	0	5	1.4	▲ 5	10
公務	2	3	1	4	1	2	2	15	4.3	3	12
就業者総数	56	66	43	34	44	37	71	351	100.0	9	342

資料　公益財団法人日本離島センター「離島統計年報」

産業別では、農業が最も多く、次いで教育・学習支援業、建設業、飲食店・宿泊業、漁業の順に多い。

＜生活＞

通信販売などにより、鹿児島や奄美大島より取り寄せている。

村営定期船「フェリーとしま」が週２便、各島と鹿児島・奄美大島を結んで運航している。

島間は不定期（チャーター）で高速船が運航している。

３．医療供給体制

十島村の有人島にはそれぞれ診療所がある。救急患者が発生した場合、ドクターヘリや県防災ヘリ、自衛隊のヘリコプターにより、鹿児島本土または奄美大島の病院へ搬送される。

診療所は７つ、村内の各島に村営の診療所があり、看護師が１名常駐している。中之島には医師が１名常駐している。

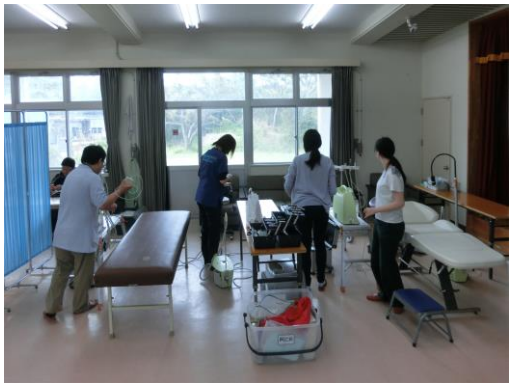
実習概要

日　付	内　　容
４月19日 ４月20日 中之島	23:00　フェリーとしま２出港 深夜の出発にも関わらず、たくさんの先生方が見送りにいらしていて驚いた。 6:00　中之島到着 熟睡しているうちに中之島に到着した。 7:00　民宿「なごらん荘」に到着、朝食 8:00　準備開始 診療のための準備をした。まずは、こじか号にて運んできた道具を運び出した。 コミュニティセンター内にチェアを１台置いて診療スペースを１つつくり、こじか号のチェアと合わせて２台のチェアで成人系と発達系の患者さんを分けて診療を行っていった。 9:00　診療開始 午前中に小中学生の学校健診を行い、治療や予防填塞が必要な児童やPMTC、フッ素塗布を希望する児童は午後や翌日に予約をとって再来してもらっていた。 学校健診以外でも、乳幼児や成人の患者さんで歯科健診に来る人が多くいた。 歯ブラシ指導をさせていただいた。 患者さんから島での生活についてなどお話しいただき、勉強になった。

	17:00　診療終了 　１日目の診療は瞬く間に終了した。
４月21日 中之島	9:00　診療開始 　２日目は前日の健診で治療や予防填塞が必要となり、予約を取った児童が多く訪れた。 　小学６年生の児童の右下第一大臼歯にシーラントをさせていただいた。ラバーダムを実際に患者さんに装着するのは初めてで、少し緊張した。ラバーダムをかけ、歯面を十分に清掃し、シーラントで予防填塞を行った。 　その患者さんを含め、前日と２日間かけて計４本のシーラントをおこなっている児童が複数いて、歯科がないと処置も一気に行わなければならず、大変だと思った。 12:00　昼休憩 　お昼休みに観光に連れて行ってもらった。底なし沼は、名前のせいなのか少し怖い雰囲気がただよっていた。十島村歴史民俗資料館では他の島々のことにも触れ、他の島にも訪れてみたくなった。そしてトカラ馬に草を食べさせた。トカラ馬を見たのは初めてで、小さくてかわいらしかった。 　午後からも小学６年生の児童の右上第一大臼歯にシーラントをさせていただいた。この日２度目となるラバーダム、シーラントであったが、今回は上顎で少し難しく感じた。 最後に、フッ化物歯面塗布もさせていただいた。 　この日処置させてもらった子たちは非常におとなしく、処置がしやすかった。佐藤先生曰く、暴れて泣き叫んでいる子の処置ができて初めて小児歯科医であり、おとなしくしてくれていたのに少し手間取る場面もあった私にはまだまだ及ばない領域であると感じた。 17:00　診療終了 　コミュニティセンター内を片づけて、荷物をこじか号に積み込んでいった。 　翌日は港でこじか号に積んだ道具を今度は、十島村高速観光船「ななしま」に乗せ換えて諏訪之瀬島まで移動することになっている。

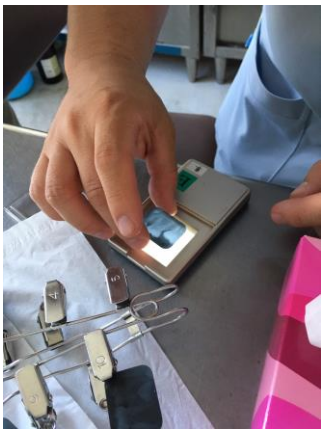
<table>
<tr>
<td></td>
<td>

この日は前日と異なる温泉に行こうということで、西区温泉に行ってみたが、清掃中だったので、東区温泉を利用した。温泉の清掃も島民たちが交代で行っているという。代金が“お気持ち”なのも驚きだった。
夜道は街灯が少なく、懐中電灯なしで歩くことは難しいほどであった。その分夜空の星がたくさん見えた。天文台で星を見たらどれほどたくさんの星がみられただろうと思った。次訪れたときには天文台にも行けると良い。
</td>
</tr>
<tr>
<td>4月22日
諏訪之瀬島</td>
<td>
8:00「ななしま」で諏訪之瀬島へ移動
小型の船で船酔いが心配だったが、去りゆく中之島、近づいてくる諏訪之瀬島の姿を観察しながら潮風を浴びているとあっという間に到着した。

9:00　準備開始
諏訪之瀬島ではポータブルユニット２台での診療となるのでその準備をした。


10:30　診療開始
昼から小中学生の歯科健診が行われた。

歯科健診を希望する成人の患者さんも多かった。
そのうちの一人の患者さんの歯周組織検査、スケーリング、PMTC をさせていただいた。
日頃の実習では歯周病科の配当実習で同じような内容の処置を行ってはいたが、環境が全然違うのを感じた。ライトが上から当たることの素晴らしさ、チェアの高さや角度を簡単に調整できる便利さを実感した。
また、中之島ではこじか号を使ってエックス線画像をデジタルで見ていたが、この日はこじか号がないため、手作業で現像していた。
</td>
</tr>
</table>

	手作業で現像する方法は耳にしたことはあるという程度で、実際に見るのは初めてで、使う道具も作業自体も初めてのものばかりであった。デジタルになる前はこのようなやり方で現像していたということで、現像液で洗う装置などもあったということだった。  洗う作業が大変なのはさることながら、この小さなデンタルのフィルム１枚１枚をシャウカステンで確認していくのも大変そうだった。 18:00　診療終了 民宿のすぐ近くのキャンプ場で星を見た。人工衛星が見えることがあるというのを知って驚いた。
４月 23 日 諏訪之瀬島	9:00　診療開始 ２日目は成人で歯科健診や PMTC 希望の方が受診された。 成人のコンポジットレジン充填によるう蝕処置もあった。 17:00　診療終了 この日は診療が早めに終わり、後片付けをおこなった。 翌日こじか号でフェリーとしまに乗せるため、道具をすべてこじか号に積みなおした。 この日の晩ご飯はバーベキュー。先生や衛生士さんから事前に話を聞いて、楽しみにしていた。たけのこを焼いて、贅沢にも丸ごとマヨネーズをつけてかじるというのは初の食べ方だったが、これがとってもおいしかった。ほかにも海の幸、山の幸が豊富でとてもおなかいっぱいになった。そこに登場したおばちゃん特製の「悪魔のおにぎり」。満腹なはずだったのにすぐに食べ終わってしまった。

	さらにお酒の席で登場したのが「悪魔の焼酎」。事前に名前だけ聞かされていて、全く想像がつかなかった「悪魔の焼酎」の正体は、パッションフルーツに注がれた焼酎であった。 普段、焼酎はにおいがきつい印象だったが、パッションフルーツに注いで果汁で割られた焼酎は驚くほど飲みやすかった。これならば飲みやすいと２杯目もすぐに飲んでしまった。これが「悪魔の焼酎」たる所以なのだろう。民宿「御岳」のご主人、おかみさんも交えて、最後の晩はよりたくさん語らいあった。
４月24日	フェリー出港までの間、観光に連れて行ってもらった。 牧場、藤井富伝翁の墓、空港跡地（場外離着陸場）に行った。空港跡地の崖を野生のトカラヤギの群れが駆け下りていった。 9:20　フェリーとしま２出港 たった数日間しか居なかったはずなのにとても名残惜しかった。この島を離れるのが寂しいと思った。 18:20　鹿児島市到着

振り返り記録

ポータブルユニットの準備の手順を学んだことはあったが、実際に使ったのは初めてだった。このバキュームの音が掃除機のようで、帰ってきて大学病院での実習に戻るとバキュームが静かで驚いた。小児の患者は普通のバキュームでも驚くのに、ポータブルを使った治療だと、より音に怖さを感じるだろう。 また、ポータブルユニットを使っていて、チェアが手動なのはとても不便であると感じた。また、ライトで上から照らすことができないため、いかにして口腔内を的確に明るく照らせるか考えるのは大変だった。

実習概要ですでに記入済みだが、エックス線写真はデジタル画像以外見たことがなかったので、レントゲンフィルムを現像する様子は大変印象深かった。しかし、今回のような離島やへき地で診療する時や、災害時など、この方法が必要となる場面はいくつも思いつく。この機会に現像する過程を学ぶことができてとても良い経験となった。

実習をとおして、診療を行う環境に関して、それが当たり前のようになっていたが、いつもずいぶんと整った環境で診療をしていたのだなと思う場面がたくさんあった。

実習中に、島に住む高齢の方とお話しする機会があり、島には病院がないため何かあった時に不安であると話しておられた。歯科に関しても、歯が痛くなったり歯肉が腫れたりしてもすぐには受診できない。だからこそ、こういった地域ではより一層予防が大切になってくると考えられる。そのせいもあってか、私が想像していたよりもずっと、島民の方々の口腔の健康への意識は高いように思った。健診に来る人も多く、フッ素塗布やシーラントなどの予防処置も積極的に希望していた印象がある。

実習中は、泣き叫ぶ子供たちを抑えつけながら治療する機会も多々あり、今回訪れたような離島・へき地の子供たちは、段階を踏んで治療に慣らしていくということができないため大変だと思った。

今回の実習は、私にとって、将来のことについて改めて考え直す良い機会となった。離島での治療は当然、補綴処置のみ、保存処置のみ、歯周処置のみという分け方ではなく、大きく発達系、成人系に分けて、すべての処置が行われた。これが大学であればそれぞれの科に紹介して治療を進めていくところだ。歯科医師として基本的なすべての処置を確実にできなければ離島では役に立たないのだろうと強く感じた。

これまで関心のある科目の専門性が高いため、将来は進む分野を絞ろうと考えていて、進む分野に特化することを考え、歯科医師として基本的な治療全般を行えるようになることはどこか二の次に考えてしまっている部分があった。そんな私の考えを今回の実習が大きく変えてくれた。歯科医師になる以上は、基本的な治療は全部できて当然、その基盤があったうえではじめて、それぞれの専門性が生きてくる。

また、民宿「御岳」のご主人が、鹿児島の人間が十島を知らないのが一番寂しいとおっしゃったのがとても印象に残っている。私も生まれてからずっと鹿児島に住んでいるが、今回の実習で訪れなければ名前を聞いたことがあるくらいで、どこにどのような島があり、どのような歴史をもち、どのような特徴があるのかを知るのはもっと先になっていたのかもしれない。それに、ただ単に調べたり聞いたりして、知識として離島のことを知るのと、実際に訪れて島の雰囲気を肌で感じたり、実際に島の生活を体験したり、そこに暮らす人々と交流したりして島のことを知るのは全く違うと思った。

鹿児島には多くの離島・へき地がある。鹿児島に生まれ育ち、鹿児島大学で学んでいる以上、鹿児島のことをもっと知らなければならない、知りたいと思った。

今回の実習では、歯科診療に関してはもちろんであるが、それだけでなく、鹿児島の離島やへき地の環境や特色、独自の歴史・文化、離島・へき地での生活、医療の供給について学ぶことがでた。そしてこれからもっと学んでいこう、どのように貢献できるか考えていこうと強く思うようになった。